

練馬・文化の会 会だより

共同代表：相川充弘 岡部昭 加藤久晴 小沼稜子 古賀義弘 田場洋和
 事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616
 (会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会)

第4回「平和」フリートーク

「国防軍」への地ならし進む教育現場 おそろしい「銃剣道」競技
 9月25日(水) 午後6時半～ 石神井庁舎5階会議室 参加費300円

安倍政権は自民党憲法草案の線に沿って、着々と「国防軍」創設に向けての地ならしを進めています。20年五輪の東京開催決定を受けて、こうした動きはさらに大胆に加速されそうな雰囲気です。練馬は自衛隊の基地がありますから、イロイロ関連する動きがみえます。1つは高校生の防災訓練が朝霞駐屯地で行なわれたこと。都立田無工業高校の募集に応じた23名を対象に都の宿泊防災訓練

計画の一環として7月末に2泊3日で陸上自衛隊朝霞駐屯地で実施された。もう一つは9月末から行なわれるスポーツ祭東京(東京国体)の一環として銃剣道競技が取り組まれることです。銃剣道は、自衛隊では「戦技」とされるものです。最近のスポーツ界は自衛隊員の活躍が目立っていますが、2020年東京五輪の決定により、こうした風潮はますます強まりそうです。(田場記)

「第二回練馬の明日をひらく文化フェスタ」10月5日(土)に

昨年に引き続いて「第二回練馬の明日をひらく文化フェスタ」が、10月5日(土)練馬区生涯学習センター(旧公民館)で午後4時からひらかれます。主催は、日本共産党練馬文化後援会ですが、区民なら誰でも参加できるもので、去年は、和太鼓、日本舞踊、ネパール舞踊、民謡、オカリナ演奏、ピアノ演奏、コントと合唱、など多種多彩な人た

ちが、それぞれの得意な芸を披露しました。プロ級のもあれば、そのほかにも楽しい演技と非常に楽しい一日を過ごしました。今年も、橋本ゆうたさんのライブ演奏など盛りだくさんのプログラムが満載です。

是非、「自分もという人も」「見るだけ」の人も集まって楽しい会を作りましょう。

第2回「江古田」映画祭 9月20日～29日 「若者たちへ」テーマに 加藤久晴さんが21日(土)にトークライブ ギャラリー古藤で

今年の2月に「福島を忘れない」をテーマに第1回江古田映画祭が行なわれましたが、第2回の映画祭が9月下旬に同じギャラリー古藤で行なわれます。

テーマは「若者たちへ」。映画は3部作5時間の映画「若者たち」の上映をメインに、「謀殺 下山事件」(熊井啓監督)、「自転車でいこう」

(杉本信昭監督)、「福耳」(瀧川治水監督)などの秀作7本をラインナップ。また20日から29日までの10日間は連日トークライブが組まれています。21日(土)は文化の会会員の加藤久晴氏によるトークが生まれ、テレビドラマ「若者たち」の話が予定されています。是非足をお運び下さい。(田場記)

「10・13NO NUKESU DAY」に練馬でもデモ

「原発をなくす全国連絡会」「さようなら原発100万人アクション」「首都圏反原発連合」の三団体が、共同で10月13日に原発ゼロの統一行動「10・13 NO NUKESU DAY」を行うことに決めました。午後1時から日比谷公会堂、日比谷公園で集会。2時からデモ出発。5時～国会前で大集会を計画しています。

この行動に呼応して、練馬でもデモ。集会を行

うということで計画しました。

10月13日10時に練馬駅北口「平成つつじ公園」に集まり、練馬駅周辺をデモ、12時に終わり、1時からの日比谷公園に集合する計画です。

練馬区内では、1昨年からは、あらゆる個人・団体が結集して、「さよなら原発」の行動を行ってききましたが、福島原発の事故は終わっていません。復興はまだまだ夢のようです。福島の人たちと連

帯しながら、是非デモ、集会を成功させましょう。

また、3月11日に合わせて9月11日（水）、10月1日（金）、11月11日（月）、12月11日（水）いずれも18時から19時まで練馬区南口駅前で行う

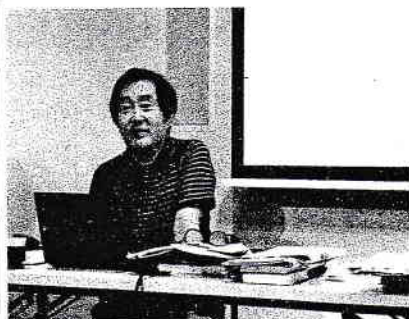
を行います。また、9月20日（金）の金曜官邸前行動には、練馬としても参加したいと思っています。

（森田記）

“「はだしのゲン」閉架措置事件」とソーシャルネットワーク(SNS)

有原 誠治

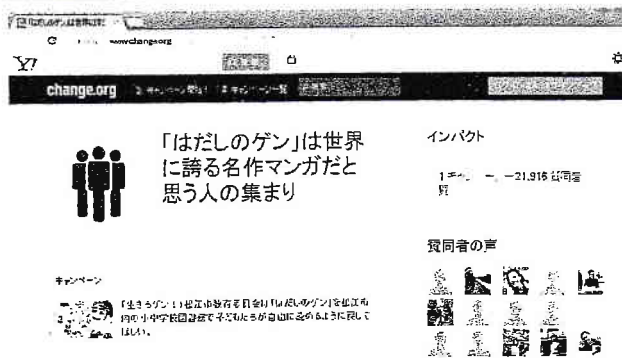
8月16日に発覚した松江市教育委員会による「はだしのゲン」閉架措置に対し、私が参加するねりま（練馬）文化の会の有志は、24日、閉架措置撤回の抗議文を作成し、武蔵大学教授永田浩三先生の手に託して、8月26日に松江市教育委員会に直接手渡していただいた。全国的な批判の高まりもあって、幸いに、「ゲン」の閉架措置は26日に撤回された。私の立ち居地からではあるが、この撤回運動の中で際立った活躍を見せたのが永田先生であり、もう一つは



ソーシャルネットワークというインターネットによるコミュニケーションツールだったように思う。

ソーシャルネットワークに、フェイス・ブック（F・B）というものがある。私は、友人の勧めで5月より始めた。そのF・Bで8月16日に、「『はだしのゲン』『閉架』に松江市教委『表現に疑問』」（琉球新聞）と報じた記事が届いた。その中に、松江の古川副教育長の言葉として「発達段階の子供にとって、一部の表現が適切かどうかは疑問が残る部分がある」とあった。これは見逃せないと思い、即刻、F・Bの自分のページに「この措置は酷い。子どもの読解力を、まちがえて捉えている」とのタイトルで、問われているのは、マンガなどメディアの持つ力を活用するリテラシー（読解力）が大切であって、隠すことではないと指摘し、続けて「『閉架』の意図は子どものためではないだろう。近現代史を教えない狙いと同じだと思う。」と書いて発信した。それは、私のF・B上の友だち百名余の友だちにただちに届く仕組みとなっている。その中に永田先生もいて、即、「いいね」というメッセージが届いた。

翌17日になると、別のF・B仲間から松江市内の小中学校図書館で子どもたちが自由に読めるように戻してほしい。」という、ネット上でのキャンペーン署名が紹介された。



私はこれに即署名をし、さらに自分のページで「賛同にご協力を！皆様にもご協力と拡散をお願いいたします。」と呼びかけた。すると、すぐに永田先生から「賛同はしますが、相手は、教育委員会ではない気がしてきました。」との意味深なメッセージが届いた。そして、その後とられた永田先生の行動には驚かされた。

私が永田さんの行動を事細かに知ったのは、閉架措置が撤回された後の8月29日。江古田のギャラリー古藤で開催された永田先生の報告会だった。

永田先生は、“閉架措置”をスクープしたのが15日（敗戦日）の山陰中央新聞朝刊だったこと。閉架措置の発端は、2012年4月。ヘイトスピーチを各地で展開する在特会（在日特権を許さない市民の会）メンバーが、「はだしのゲン」第10巻に描かれた日本兵の残虐行為の描写を「事実でない」と問題視し、松江市の教育委員会窓口を脅しに近い「学校図書からの撤去」を求める要請があり、教育委員会担当課はこれを拒否。八月に同主旨の陳情が松江市議会にあり、市議会は全会一致でこれを不採択とした。だが、その後、教育委員会内部の一部の策動で閉架措置が行われたことなどなど。そして、26日に松江で傍聴した教育委員会の審議内容までを事細かに報告してくれた。

松江まで出かける動機となったのは、キャンペーン署名のリーダー樋口徹さんを知ったことだという。大阪の樋口さんは偶然にも、永田先生の高校の後輩だった。意気投合したお二人は、署名の提出と教育委員会傍聴をかねて、26日に再討議となっ

た松江の教育委員会に直接乗り込むことにしたのだそうだ。実は、ねりま文化の会有志の抗議文は、永田先生から私に、「文化の会の抗議や要請があったら松江に届けます」との電話があり、私が慌ててねりま文化の会の田場洋和さんに相談して作成された経過がある。

26日午前中松江市で、樋口さんと永田先生は受け取りを嫌がる副教育委員長に、樋口さんのキャンペーン署名と文化の会の抗議文などを取材メディアの前で直接手渡すことに成功した。ネットで広がったキャンペーン署名は、9日間で実に21,000筆

を超え、ネット署名として最も成功したプロジェクトになったそうだ。永田先生は、下村文部大臣や菅官房長官が「問題ないと」と容認した閉架措置を、行政の末端にある松江の教育委員会が時間発覚から11日間で撤回せざるを得なかったのは、それだけ市民の抗議の声が大きかったからで、それをつなげたソーシャルネットワークの力が大きいと語った。私も同感である。どうじに、マンガとマンガ「はだしのゲン」がどれほど深く広く人々に愛されていたのかを天下に知らしめた事件として、とても印象的だった。

小岩さんに聞く：30回越す「風船爆弾」の語り部活動 3時間の大作映画「陸軍登戸研究所」にも主演級で登場

(ある日、「風船爆弾」の語り部活動について話を聞きました。ここでは、そのほんの“さわり”だけ紹介します。やはり本編は小岩さんの執筆に・・・)

私が「風船爆弾」を話すようになったのは、鎮魂・不戦の旅で中国に行った時、友人から「小岩さん、貴女は風船爆弾の話をする責任があるわ」といわれたのがキッカケでした。それまで風船というと、カラフルな夢のようなものと思っていた私は、戦時中に風船なんて作っていたなんていえないと思っていました。殺人兵器だということで、それからは風船爆弾の話が出ると、関連の場所に出向いたり、本を読んだり、知ることに夢中でした。求められればそれらを少しづつ話していたのですが、やっぱり「テレビみつがしわ」の番組で紹介されてからは、人づてに講演依頼、語り部の話が舞い込みはじめました。

小学校の授業や生協の集まり、それに新婦人の小組み、土建など、遠くは埼玉・横浜などまで出向きました……。結局数えると30回くらいになる

かもしれません。中には江戸博物館で海老名香葉子さん、元女学校生徒さんと3人で300人くらいの前で話したこともあります。小学校で話すと、必ずといってよいほど、先生が子ども達の感想文を送ってくれます。今やそれは私の貴重な財産になっていますね。

「テレビみつがしわ」の番組は地方の時代の奨励賞を受賞しましたが、私が特に印象深かったのは、学生さんと戦争について語っていたシーンですね。学生さんが真面目にストレートに戦争の疑問について質問したのがうれしくて、私も孫に話すように応じていたシーンです。このシーンは番組を見た人からこぞって褒められます。

最近ロードショーになった3時間の大作映画「陸軍登戸研究所」でも風船爆弾と私が紹介されています。素晴らしいドキュメンタリーです。この映画も是非文化の会で上映に取り組んで欲しいですね。

(田場記)

日米間に新しい外交を —「新外交イニシアティブ」にご参加ください！ 事務局長・弁護士 猿田佐世

この8月、シンクタンク「新外交イニシアティブ (ND)」を設立した。国境を越えて情報を収集・発信し、政策提言を行うシンクタンク (NGO) である。現在の外交、特に日米外交が、ごく限られた特定の人々によって行われ、限られた声しか反映されていない状況を変えるために作られた団体である。私は昨春までワシントンに住んでいたが、そこでは日米外交の現場を垣間見る貴重な体験をすることができた。しかし、そこで語られている日本は、私の知っている日本ではなかった。日本にはもっと多様な意見があるにもかかわらず、そ

れらの声は外交には全く反映されていなかった。そんな思いから、私は、沖縄米軍基地や原発の問題について、米政府や米議会に対してロビーイングを行い、米メディアに働きかけるなどして日本から米国に声を伝えてきた。ロビーイングでは、沖縄基地問題を管轄する米連邦議会下院の担当小委員会委員長から「沖縄の人口は2000人か」と聞かれたこともあり、我々が普段米国から受けている圧倒的な影響がいかに歪んだ状態のなか作り出されているかを実感することも多かった。原発、TPP、米軍基地問題、憲法など、実に多くの

問題で日本は米国の影響を強く受ける。例えば、昨年9月、民主党政権は「2030年代原発ゼロ閣議決定」を試みたが、米国の圧力により見送りとなった。このように、米国の影響力には歯がゆい思いをすることも多い。しかし、日本から米国に対して、自分たちの声を直接伝えてきたことがどれほどあったか、と考えると反省することも多い。伝えなければ声は伝わらない。民間外交、市民外交、議員外交、それをNDでは行っていく。

ND理事は、鳥越俊太郎（ジャーナリスト）、藤原帰一（東大教授）、マイク・望月（ジョージワシントン大学教授）、山口二郎（北海道大学）各氏。

なお、10月24日18時半から、明治大学駿河台キャンパス・リバティータワー12階1123号室で前中国大使の丹羽宇一郎氏と鳥越氏が登壇するシンポ「民間大使の見た日本外交～これからの日中関係を考える」を開催（資料代1000円）。ご参加ください。

★現在、NDを支えてくださる、また、ともに国境を越えて声を運ぶ活動をする会員を募集中です。（お問合先：03-3948-7255）。ぜひ、会員になっていただきますようお願い申し上げます。

詳細は、インターネットで「新外交」で検索を！

「脱法ハーブ」の練馬1丁目「販売店」の売り上げ好調 近隣のPTAなどが学習会開くも、営業は継続

皆さま、脱法ハーブをご存知ですか？昨年あたりから、児童損傷、交通事故などの要因としてたびたび報道されているもので、簡単にいえば麻薬類似薬草。桜台、練馬の住民約40名で組織している「練馬地域の会」は昨年6月に練馬駅北口の大門通りに開店した脱法ハーブの販売店「GOD」の動向を注視しているが、開店1年を過ぎた最近では1か月の荒利が150万円を越して好調な売り上げを継続していることがわかった。

開店直後の昨年は、近隣の小中校のPTAが、続いて今年に入って「地域の会」が都の担当者を招いて脱法ハーブの危険性をテーマに学習会を開

いたが、こうした動きは「GOD」への圧力にならず、依然営業は継続している。都の担当者に言わせると、都内に販売店は100近くあるが、大半はマンションの1室の営業。「GOD」のように大びらに営業しているのはマレだとしている。

実は「地域の会」には文化の会の会員が10人くらいいる。「GOD」の店は田場の自宅から歩いて数秒のところ。そんなお店がもし居座り続けるとしたら危険だし、地域にとっても、ましてや商店街にとってもイメージダウンは必至だ・・・近く都の担当者と作戦を練る。

（田場記）

「練馬・文化の会」のホームページが9月にはスタート

会員の中田英明氏が社長のF I C社の全面協力をいただいて作成していた当練馬・文化の会のホームページ（HP）がすでに始動しています。HP

のアドレス・URLは下記ですので、是非みて下さい。
<http://1st.geocities.jp/nerimabunka/>

新入会員紹介：F I C社の3人含め久し振りに6人入会

HP作成のF I C社から寺崎進（1964年6月生まれ）、日高健介（1978年2月生まれ）、林田拓也（1994年10月生まれ）の3人が揃って入会。会員の高齢化ダウンに大きく貢献しています。ほかの新入会員3人は下記の人たちです。

年内には歓迎会をとの声も・・・・・・・・・・。

- ・下哲也（劇団俳優座演劇制作部長）
- ・椎木俊秀（社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院院長、みどり愛育園園長）
- ・猿田佐世（弁護士：日本、米NY州、ND事務局長）

幹事会のお知らせ

：10月10日（木）後7時～石神井庁舎
（会員であれば、どなたもご参加下さい）

年会費納入のお願い

13年度年会費未納の方は振込み用紙同封しました。（80歳未満：3000円、80歳以上2000円）。既に納入済みの方に同封した場合は失礼の段お許しください。